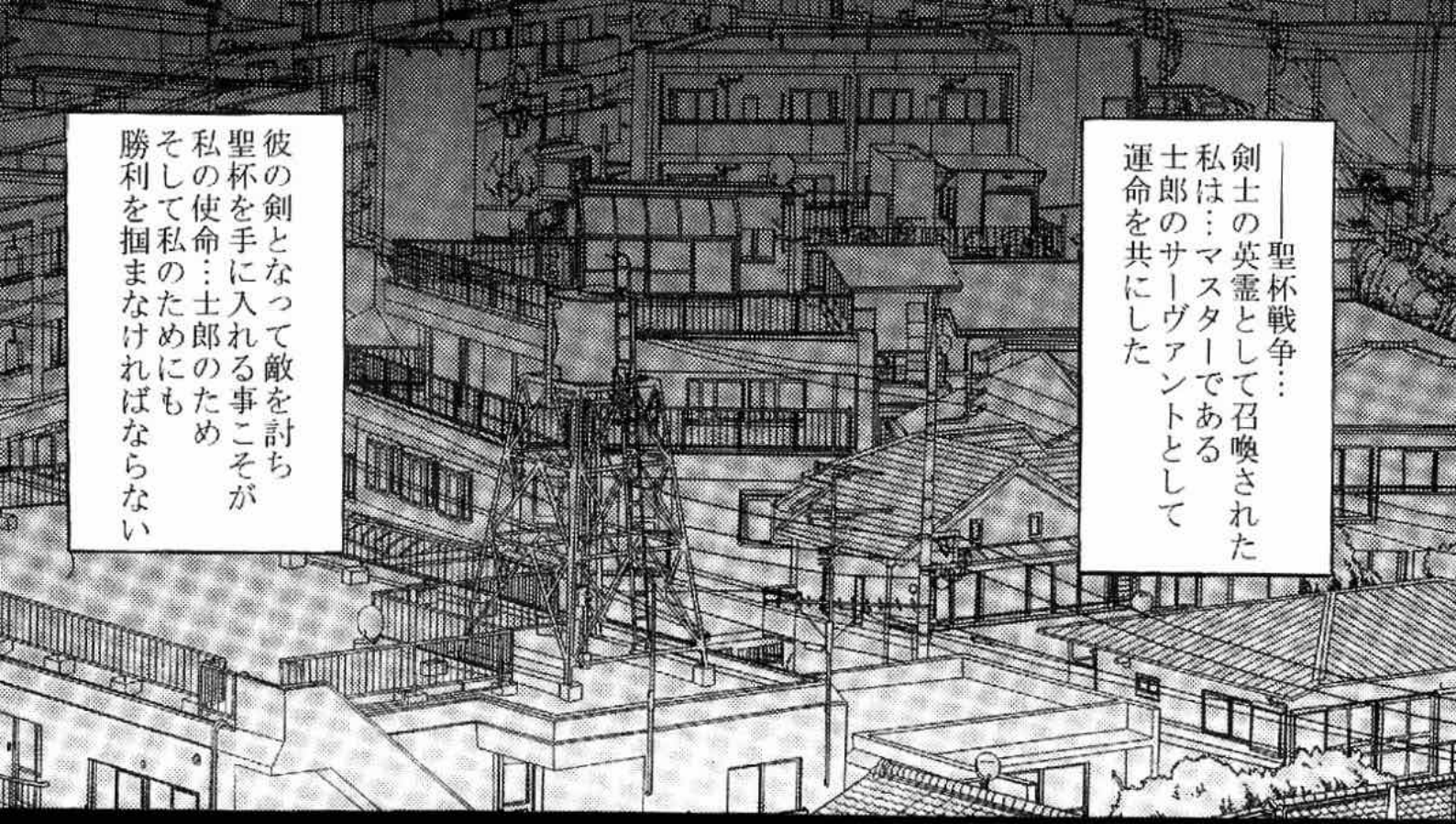


奴  
隸

騎  
士  
I


成人向





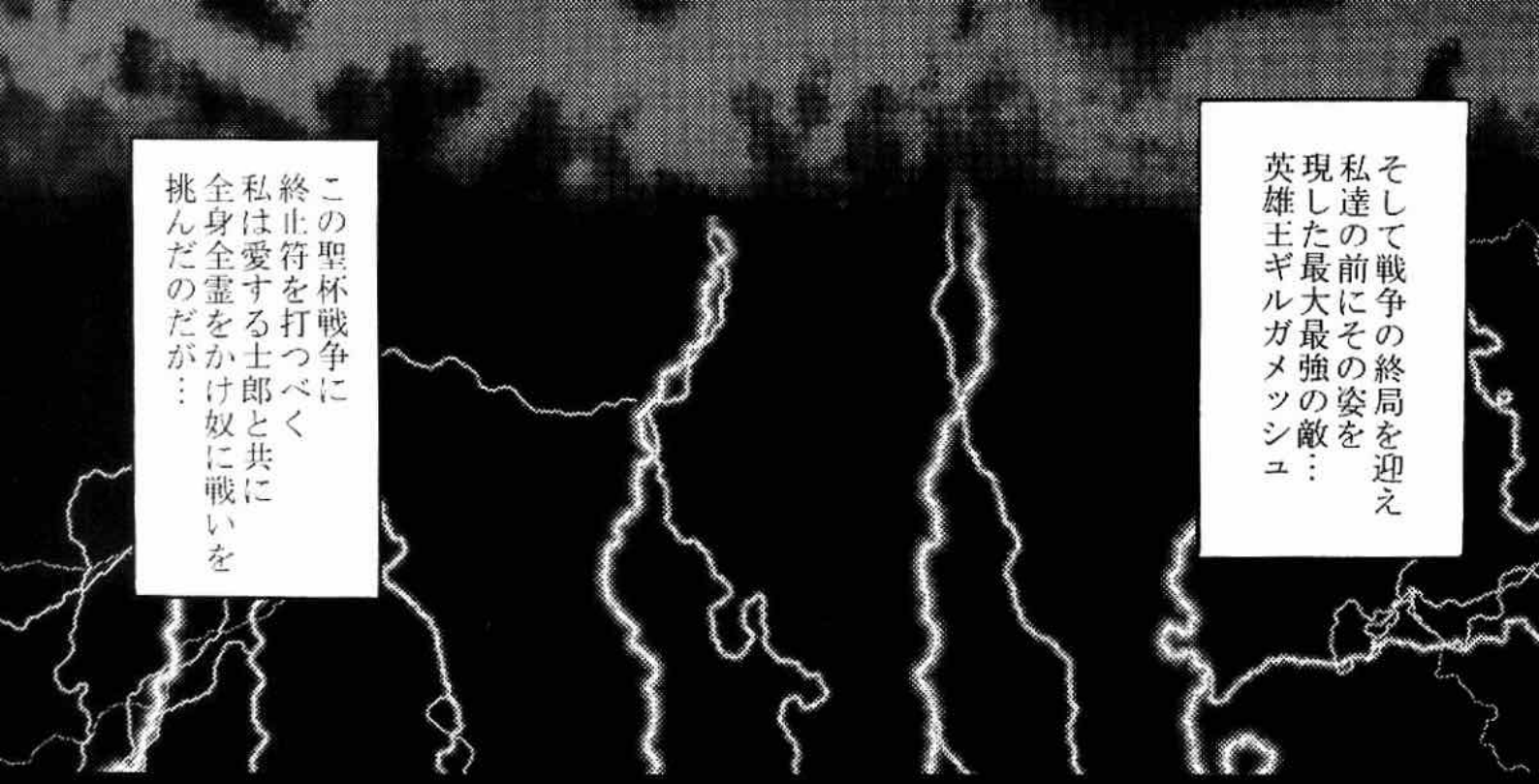
聖杯戦争：  
劍士の英霊として召喚された  
私は：マスターである  
士郎のサーヴァントとして  
運命を共にした

彼の剣となって敵を討ち  
聖杯を手に入れる事こそが  
私の使命：士郎のため  
そして私のためにも  
勝利を掴まなければならぬ




否応なく舞台へと  
駆り出された士郎には  
聖杯戦争はあまりにも  
過酷で非常な現実だった：

私達は多くの血を流し  
強敵を退け限界を  
超える戦いを  
幾度となく強いられた



そして戦争の終局を迎え  
私達の前にその姿を  
現した最大最強の敵：  
英雄王ギルガメッシュ

この聖杯戦争に  
終止符を打つべく  
私は愛する士郎と共に  
全身全霊をかけ奴に戦いを  
挑んだのだが：



彼の圧倒的な力の前には  
全く歯が立たず：私達は  
：敗れてしまった：

フフフ：何とも  
あつけない幕切れ  
だったなセイバーよ：  
我が宝剣エアの前では  
貴様とてまるで無力

まあ：  
あのような雑種が  
マスターではどうにも  
なるまいがな：

……これはいったい  
どういうつもりです？  
ギルガメッシュよ

何故私に止めを  
刺さずこのように  
鎖で繋ぐのか

貴方は敗者である  
この私を愚弄する  
つもりですか

流石は騎士王  
気高い良い眼を  
している

セイバー：  
貴様を消して  
しまつては何の  
意味もないのだ

私の望みはオマエの  
全てを手に入れる事よ：  
身も心も我に捧げ  
王ではなく一人の女  
として我に忠誠を  
誓わせる事だ

黙れ…っ！  
そのような  
世迷言…っ！

ククク…  
貴様は我が力の前に  
敗北したのだぞ

敗者は勝者によって  
蹂躪されるもの  
それが戦の掟だろう

貴様…っ！

威勢が良いのも  
結構だが口は慎めよ  
セイバー…オマエを  
現世に残すために

あのような雑種を  
まだ殺さず生かして  
おいてあるが

オマエの態度次第  
ではいつでも  
奴を冥府へ送る事が  
出来るのだぞ…

マスターである奴を  
殺せば貴様を現世に  
残すのが少しばかり  
面倒になるのではな

言峰が殺そうと  
していたところを  
助けてやったのは  
我だ…

わざわざ貴様の  
マスターの命を  
救ってやったのだ  
感謝するがいい

…全てはオマエを  
手に入れるため…  
騎士王たるその  
厳格で崇高な心…

そして  
その身体をだ



な…っ!

なにをっ!

き…貴様っ…  
何をする…っ!



フッフ…流石は私の  
見込んだ女よ…  
素晴らしい肢体を  
しているではないか

やあっ

触るなっ  
下郎っ!

あ…くうっ  
やめろお…っ!

顔に似合わず  
このような大きな  
モノを鎧の下に  
隠していたとはな

く…っ

は…  
離せ…っ!

これだけ大きいと  
戦闘の邪魔に  
なるのではないか?  
ハハハ…ッ

この肌のツヤと弾力  
まさに完璧ではないか…  
この肢体全てが  
我のモノになるのだ

私に…  
触るな…っ

ん…っ

あぁっ

そう、  
全てがな…っ

その下衆な手を  
離せっ  
ギルガメッシュユっ！

こ…このっ  
恥をしれ…っ！

先程も言った  
はずだぞ…敗者は  
勝者によって

黙れ…っ！  
このような恥辱

許さんか…  
いいだろう

自分から進んで  
我を受け入れたく  
してやろう…

あ…っ！

蹂躪されるもの  
だと…  
覚悟を決めよ  
セイバー

断じて  
許さんっ！

なにを…っ！？



—ッ!?

デイズメク  
ゲウイリシムス  
オブル、ムルス  
ダ、イーダ

エール、ヴェ  
バ、リアクール  
デシリ、メリ



ライリ、ライリ  
ルアピスタウ



く……  
…貴様……  
私に……いったい  
何を……した……っ!?



あうっつ!

ひい……っ!

あつああ……っ!



ククク……  
我が体内に宿りし  
呪われた聖杯の力……

穢れた聖杯の  
呪いによって  
オマエに特別な  
身体を与えたのだ



貴様の身体は  
サーヴァントとしての  
霊体の身体だから……

我が奴隷としての  
新たな戒めの肢体と  
融合させたのだ……



ばかな…っ  
そんな事が…

その呪の身体は  
オマエの精神を  
どんどん  
侵食していく…

抵抗など無意味  
聖杯の呪縛からは  
何者も逃れられぬ

…出来るのだ  
セイバーよ  
我には造作も  
ないこと

わ…  
私が…

これは…  
この感覚…  
熱い…っ

身体の芯から  
震えが…くる  
あ…くう…っ

こ…の  
…程度…で

貴様ごときに  
屈したりはしないっ！  
私は騎士王だ…っ！

なにが…  
あろうと私はっ

このような下卑た行為  
底がしれたなっ  
英雄王よっ！！



…だがもはや  
その身体では  
虚勢を張るのも  
無駄だと知るがよい

聖杯の呪いによって  
肢体が疼いて  
いるのであろう？  
セイバーよ我に身を  
委ねるがいい…

我を主として  
永遠の忠誠を  
誓うのだ



たいした氣勢だな  
そうでなくては  
面白味に欠けると  
いうものだ



…そうか  
ならばあの雑種は  
五体バラバラに  
切り裂いてくれよう

奴を生かすも殺すも  
貴様次第だぞ  
よく考えて返答  
するのだな…

—ツ！



ふざけるなっ！  
誰が貴様のような奴に  
忠誠など…っ！



……士郎…  
…貴方を死なせ…  
…しない…っ



さあ、我に従属せよ  
我が奴隷となる誓いを  
するがよい…



あ…熱い…っ  
あああ…くう  
身体が…灼けるっ  
ああ…あああっ！

ああああっ！

あああ…っ

あう

あうう

あ…あああっ！

あっ

な…何かが…っ  
…身体中を…  
駆け巡る…っ！

あああああっ！

あ…ああ

ああっ

あああ

あう

あう

あ



あ……っああ  
くっ……んんっ

この……感……覚  
肉体が……支配  
されて……いく……

あ……あああ  
あはあ……っ

フフフ……  
貴様の忠誠の  
誓約によって  
呪が完全に発動  
したのだ

性感帯は数倍になり  
オマエは女としての  
自分に覚醒する……



これからは  
先程までのような  
生意気な態度は  
できぬぞ

士郎……私は  
何があるうと……  
……負けません……

例え……貴様に  
従属の……誓いを  
……しようとも

わ……  
私は……

私の……真の……  
主は……  
……唯一人……

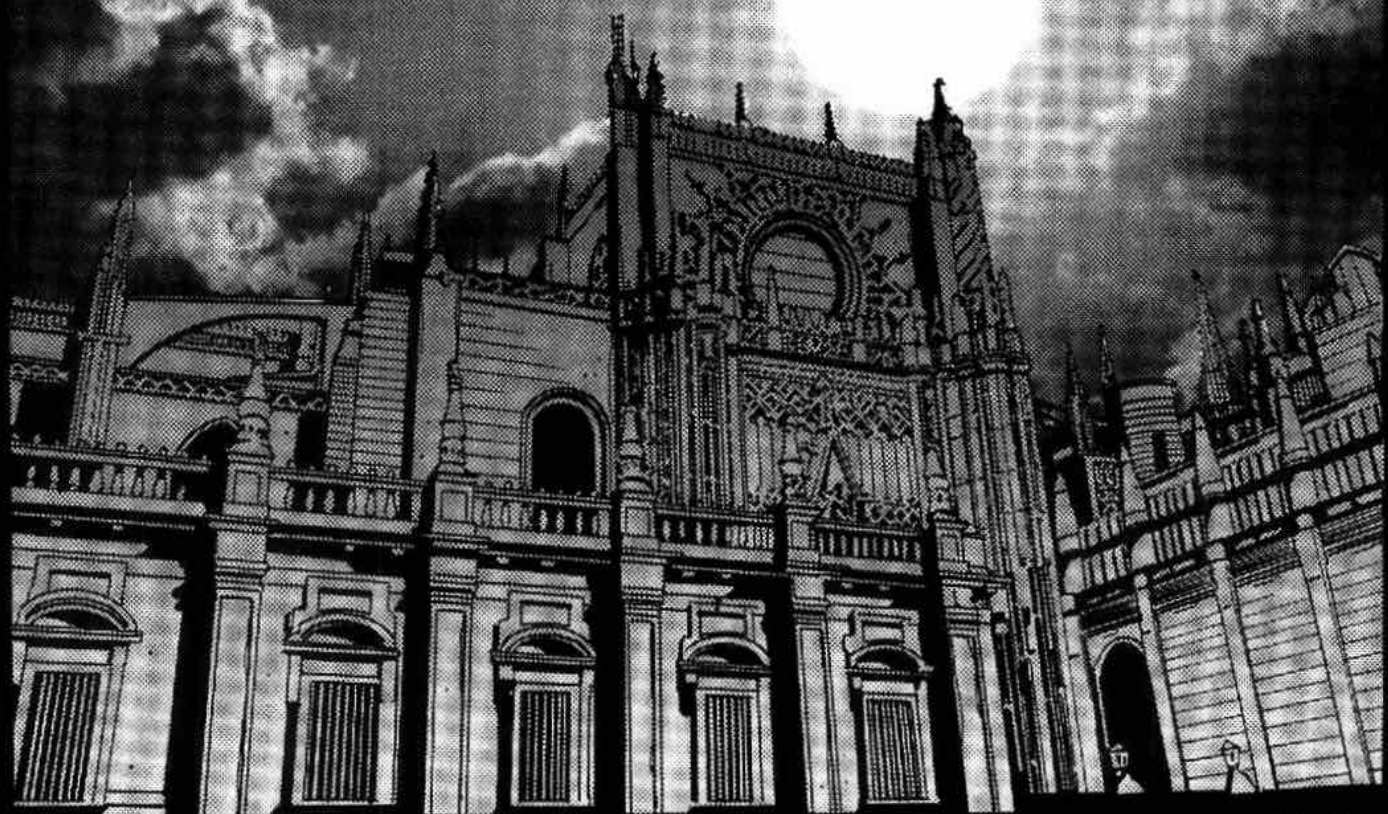


私の……心には  
貴方だけ……

士……郎……

オマエはもう  
私のモノだ……  
どんなに抗おうが

いつかは心か……  
我に従うよう……  
なる……



身体中から湧き  
あがる：穢れた黒い  
欲望を抑えられない：  
聖杯の呪縛が精神を  
蝕んでいく：

全身がはじけるように  
熱い：激しい疼きが  
波紋のように広がり  
私の理性を奪い取る：





…身体が全く  
言うことを  
きいてくれない…



…この強制力…  
奴の支配下に  
あるのは確かだが…  
まだ私の精神を完全に  
支配されてはいない…

今は堪えるしかない  
…なんとか  
この精神支配から  
逃れないと…

奴の意のままに  
操られている…  
命令に逆らうことが  
…できない





士郎のために…  
私は耐え抜いて  
みせる…っ

あん

んっ

んっ

んっ



どんなに身体を  
汚されようと  
…  
…

貴様に心から  
屈することなど  
絶対に無いっ



んっ

ん…あん



んっ

あっああ



んっ

あ…んっ



んっ

はあっ



はあ

あ…あ…  
あ…はあ…



ああ…



ん…んっ

あっ



あんっ

んっ



セイバーよ  
私の愛撫で随分と  
感じているよう  
ではないか？

こんなに下を  
濡らしておいて  
感じてないと  
言うのか？

貴様の…  
愛撫なんかで  
…感じる…  
わけが…

ち…

ちがう…っ  
わ…私は…  
感じて…  
…なんて…

あっ

な…い…っ

あはあっ

あん…っ

あ…あ

強情な女だ…  
どこまで  
耐えられるか  
見モノだな

はあ…あ

…そう…私は  
感じてなんて…  
…いない…っ

こ…こんな  
…程度…  
で…っ

…私は…  
負けない…っ

き…貴様の…  
ような…  
…奴に…っ

はあ

たとえどんなに…  
陵辱されようと  
…私の心が…  
折れる事は…ないっ

私は…っ



私は…こんな  
奴に屈したりは  
しない…っ

…本番は  
これからだぞ

オマエに  
女としての  
真の悦びを  
教えてやる

骨の髄まで  
たっぷりとな…

あはあ…  
ああんっ

あん…



このいやらしく  
大きい乳房は  
我を楽しませる  
ための玩具だ

ああ

私の…胸に  
…汚らわしい  
手で…触れる  
…な…っ

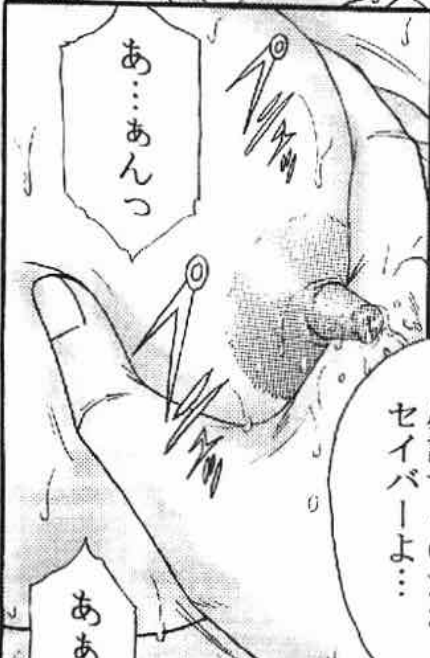
あんっ



ああ…だめえ  
あ…あん…っ

まずは貴様の  
この卑猥な  
乳房を弄んで  
やろう

あああっ



あ…あんっ

ああ



そうだ…我に  
感謝するのだな  
セイバーよ…

き…貴様が…  
私の身体を  
…このように

揉まれる度に  
快感の波が…っ

あま



ククク…  
母乳を節操なく  
撒き散らしおっ

あくう



ああ...  
ああん...

あひこ

あ...あめ  
ああ...あんっ  
はあ...あんっ

乳を揉まれて  
はしたなく喘ぐ  
肉奴隷にな...

あう...ああ  
で...あう...

あはあ...

ああ...  
身体が熱い...  
力が...  
ぬけていく...

強く気高い騎士王  
のセイバーは  
もういない...  
オマエは新たに  
生まれ変わったのだ

あはあ...

やあ...  
あん...吸わ

あう

ない...で

ああ...

あうんっ

ひあ...

ああ...あんっ

んふっ

ああ...あんっ

はあ...あんっ

あんっ

ああ...

ああん

…ダメ…ッ  
このままでは…  
…ああ…くう…っ

ああ…あああつ  
か…身体が凄く  
敏感に…なって…

ああ…あああつ  
はあ…あつ

ああ…あ  
ああん…っ

美味しいぞ貴様の  
母乳は…っ  
まさに美味  
最高の味わいだ

ああんっ

みつともなく  
喘いでみせるが  
いいっ!

ああ…んっ  
あつああ…

ハハハ…ッ  
良い啼き声だぞ  
さあ、もつとだ  
もつと不様で

あはあ















あの凛々しく  
屈強で清楚だった  
貴様の姿はもう  
見る影も無いな



身体を痙攣させ  
はしたなく喘ぎ声を  
あげおつて…



さて…そろそろ  
オマエに我との  
誓約による呪縛の  
本当の支配力を  
見せてやろう…

さあ…セイバー…  
我がしもべとして…  
主である我にオマエの  
そのいやらしい秘部を  
拡げて見せよ…っ



…… 士郎…  
許して…下さい…



あ…ああっ  
そ…そんな…  
はあ…あっ

や…やだ…あ  
…だめ…え  
あああ…っ

ああ…っ  
んあ…ああ



…っ…？

…く…っ  
ああ…あ

今の貴様の弱った精神ではこの完全な支配力に逆らう事はできない……もう生意気なへらず口も言えぬであろう

ああ……あつな……なんて強い……強制力……つ

逆らえない……つ

ああ……つは……い……

尻を上げて媚びるように我に懇願するのだ

はあ……あ

私のモノを卑しくねだるがよい……

……御主人様……

どうか………御願ひ………致します……

この……哀れな……肉奴隷………セイバーの………ここに………

……ご主人様の………遅しい……ペニスを……臆奥まで……突き挿し……クチヨクチヨに……掻き回して……

くだ……さい

そうか……そんなに私のモノが欲しいのか？ 答えよセイバー

……欲しい……

……く……つ……こんなこと………言いたくないのに………

とつても………欲しい………い……です

お……願ひ…………します………

…どうにも  
ならない…っ  
私自身が…奪い  
取られていく…

股間にはメスの  
匂いが充滿して  
おるぞ…っ

あひっ！

ああ

ククク…  
オマエにそこまで  
おねだりされては  
断る訳にはいくまい

あ…はあ

ここをこんなに  
勃起させおって  
本当に淫乱な  
女だな貴様は…

あっ…ああ

あんっ

…あ…  
ありが…とう  
…ございます…  
ご主人…様…

ひあ…っ

こうして  
弄られると  
気持ちいいか？  
ん？どうなのだ？  
答えよっ

あっ

は…い

ああっ

おお…っ  
これは凄い…っ  
汁がどんどん  
溢れてくるぞっ

あはあっ

気持ち…

いい…  
で…すうっ

ああんっ

ひあ…

ああ…

ここが私のモノを受け入れたとき…オマエは完全に我がモノとなるのだ

あんっ

我はこの刻この瞬間を待ち望んでいたぞ

あっ…ああっ  
だめ…い…今…  
挿れられ…たらあ

は…あ  
っはあ…あ  
あ…ああっ

ああ…

ああ…あ  
あはあ…っ

あっあ

っあああ  
ああ…ん

では…頂くと  
しようか  
貴様の全てを…っ

は…あっ



—ああっ—!!

あ…ああっ

っああ

あんんっ



ああ

あんっ

あひんっ

あはああっ

ああっ

はあ



ハハハ…ッ  
素晴らしい…ッ  
貴様の膣内は  
最高だぞっ！

この感触…私の  
モノをネットリと  
きつく締め付けて  
きおるわ…ッ

ああああっ

ああ

ひあっ

っあ…はあ  
あ…ああっ

ああ

ああんっ

あっあ

あああん

ああっ…こんなあ…  
ダメえ…えっ  
一突き…される度に  
意識が…  
とび…そう…っ

ああっ

あんっ

んああ

あっはああっ



あつ…くう…つ  
す…凄い…い  
…声が…  
止まらない…つ

ひいあつ

つああ

ああ

はあつ

ああう

その喘ぎ方…  
くすぶっていた  
欲情が一気に開放  
されたようだな

心地よい啼き声  
だぞセイバー…  
快感に喘ぐオマエ  
の姿を見るのは  
実に良い気分だ

あん

あつ

あああ

ああ



んあ

あああつ

つああ…あつ  
はああんつ

ああつ

あぁ…あんつ  
まるで…生き物  
のように…膣内を

つはああ

あつ

ひん

掻き回して…  
いくう…っ

私のモノを  
全身で感じよ  
哀れなメス犬っ

ああん

あ…ああっ

ああっ

あっっ

あはあ

んああ

あはああっ

ああん

はあっ

あひい

ああん

ひあ

ひっっ

ハハ…ッ  
嬉しいか？  
最高の気分で  
あろうっ

ああ

ああっ





膣奥から伝わって  
くるぞ…っ  
貴様の肢体が  
喜んでいるのをっ

ああっ

はぁっ

ああっ

すっ…っ

あああ

あん

あああ



セイバー  
貴様は淫乱な  
メス犬  
なのだからなっ

ひっっ!

ああっ

すっはぁっ



そらっ  
もっど喘いで  
みせよっ!

あっっ

あん

あ…ああ

はぁあ…あ  
あっあああ

あああ

はぁ…あ



いいぞ  
膣内の締め付けが  
一段と良くなった  
ではないか

ひっっ

あああ…っ

あうっ



ああ

クク…この感度は  
通常の10倍に  
なっているからな

ああっ



あんっ

だ…めえ

あはあ



ああ…はあ  
あっああん

あああっ



ひっっ

だ…めえ…っ  
そこ…だけは  
弄らな…いで

だめえっ

ああ



ほれ…子宮口を  
押し上げて  
いくぞ…っ ♡

はあっ

ああ

ああっ

あはあっ

あああ

あ…あっ



あはあ

あっああっ



はあ…あん  
あっあああ

んああ

ひあ…っ  
ああああっ



あはあ…ああん  
あはあ…あはあ

だ…めえっ



子宮が…蹂躞  
され…るうっ

はあっああ  
あっあんっ

あひっ

あんっ

っああ



あああんっ！

あはあ



あああ

あああ

あんっ

ああん



あひ

何ともはしたなく  
卑しい喘ぎ声だな  
セイバーよっ

はあうん

ああっ

あんっ

あっ



あ…あああん  
士…郎お…っ

ああん

ひあっ



貴様のマスターに  
見せてやりたい  
ものだな…っ！

あああん

私のモノを  
嬉しそうに啜え込み  
猥らに腰を振る  
そのあさましい姿

はああっ

ああっ

あ…ああう



膣内の締めりが  
更に良くなったぞ  
あの雑種の事を  
考えて興奮でも  
したのか？

あああ

あんっ

あひい



はあっ

フフ：我のモノは  
あの雑種の粗末な  
モノとは比べ物に  
なるまい？

ああ



ああっ

あっ

あああ…ん  
ひっ…あああ

ああう

はあう



ああっ

こっちが…  
いい…ですう  
ああああっ

もっとはつきりと  
言ってみせよっ  
どちらを啜え込む  
方が嬉しい  
のかをなっ！

ああん

は…

は…

あああ



ご主人…様の  
方が…いいっ

隆奥まで

くさのお

あんっ

すっ…凄く  
いいですら  
あっあああん

ああ

気持ちいいっ  
気持ちいいひっ  
です…っ

あはああんっ

はああんっ



あうっ

ああっ

あっああっ

ハハハ…ッ  
素直に言った  
ご褒美だっ

あああっ

あはああんっ

イクウ…っ  
イキ出すっ

ああんっ

あうっ

私の精液を  
くれてやろう

そらっ  
射精すぞっ!  
貴様の膈内に  
たっぷりとなっ

ああんっ

私の精液をその  
卑しい子宮で受け  
止めるがよいっ!

私も…いつ  
イキますう  
ああんっ

イクウ

ああんっ

はあうっ

あひいっ

ああんっ

貴様は私の  
モノだっ!  
フハハハ…ッ

ひああ

ああんっ

あはあ

膣内射精されて  
ビクビク痙攣  
させおって…  
フフ…可愛い奴よ



奴隷の言葉など  
ではなく  
ほら…貴様の  
本心を聞かせて  
もらおうか

どんな気分だ？  
セイバー…  
私の精液で子宮を  
満たされて  
幸せであろう？

あ…っ

—！？  
支配力が…



っ…きん…  
きんま…っ

よ…よくも  
…このような  
屈辱を…っ！



ほう…流石は騎士王  
支配力を弱めた途端に  
そのようなへらさず口が  
きけるとはな



この…  
卑怯者…っ

あ…



ククク…いいだろ…  
今度はそのままで  
貴様を可愛がって  
やろうではないか

ああん…





それでこそ  
騷りがいがあると  
いうものだっ

ああん



ああっ…く…っ  
駄目だ…このまま  
だと私は…っ

やめ…っ  
あっああん  
だめえ…っ

あはあ

ああっ

…だが安心したぞ  
まだ貴様の心は折れて  
いないようだなっ

あんっ

はっ

あう



あひいっ



…私は…随ちて  
しまう…  
し…士郎お…っ

ああっ

あんっ

やめろお

だめ…ああ  
あはああっ

さあ、もつと我を  
楽しませて  
くれよセイバーっ

はあっ

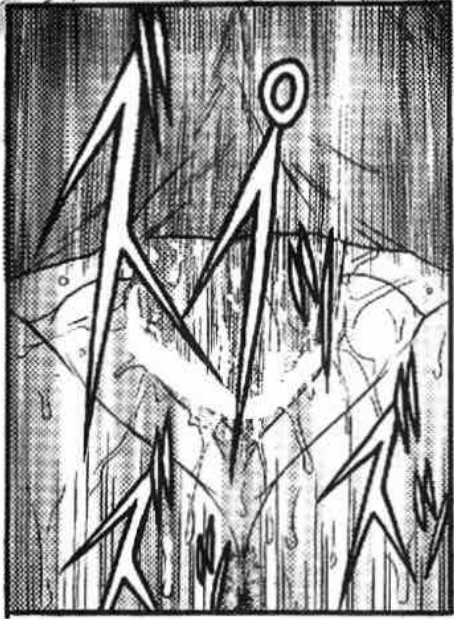


良い締め付けだ  
口では何と  
言ってもここは  
正直なものよっ

隆奥にっ  
あぁ...んんん

あはあ

あひいっ



あはあ

どうだっ？

気持ちよい  
のだらうっ？

あんっ



貴様が  
どう足掻こうが  
我からは逃れら  
れぬのだからな

ひいん



身体の  
赴くままに  
快楽を食れ

あはあ

あはあ



あはあ  
あはあ

あはあ



あゝあゝ

あんゝあゝ  
はああんゝ

あゝあゝ

あん

ほら、どうした？  
喘ぎ声ではなく  
さっきのように  
我を罵ってみせよ



あゝ

あゝあゝ

あゝ

あゝあゝ

あゝ

やっ…やめてっ  
今…そこを  
弄られ…たらあ



駄目っ  
駄目え…っ！  
搾らないでえっ

だるう…  
だるう…

ひっ

こぼれ

も…搾  
ない…でっ

はあんゝ

あゝあゝ



可愛い啼き声  
ではないか...♥  
貴様を弄ぶのは  
実に気持ちが良い

貴様がもつと  
乱れ喘ぐ姿を  
見たくなるな  
...



そ...そんなっ  
これ以上は...  
耐えられないっ

だ...だめっ  
やめ...る...っ



まだ早いかと  
思ったが貴様の  
性感帯を全開に  
してやろうか...

ククク...ツ  
さて...どんな  
啼き声を聞かせて  
くれるかな?



あはああ

あああーッ!



*to be continued...*



# 騎士執事

*KUSARI*

アオイみっく



*KING ARTHUR*

*SABER*